令和元年１０月1日発行　第１６号

成田剣道連盟だより

発行：　成田剣道連盟　広報委員会
Tel 0476-42-6294

日頃ご指導を頂いている先生はよく「剣道は頭を使え。工夫しろ。剣道ほど頭を使うスポーツはない」と言われます。

以前に「頭のよくなる剣道」という本のご紹介をしたことがありますが、剣道をやるから頭が良くなるのか、頭がいいから剣道が上達するのか・・・

今回も巡回稽古で話された講話と新たに六・七段に合格された方からの一文を中心にご紹介いたします。

剣道の理念　　吉野　勝男　　教士七段

全日本剣道連盟は昭和50年に「剣道の理念」「剣道修練の心構え」を発表した。

正しい剣道技術の修錬を通じて個々の人間性を陶冶することを目標としたのです。

剣道修錬の心構えには
剣道を正しく真剣に学び
心身を錬磨して
旺盛なる気力を養い
剣道の特性を通じて
礼節を尊び
信義を重んじ
誠を尽くして
常に自己の修養につとめ
以って
云々とある。

私は脳梗塞を患い二度と稽古はできないと思ったこともあったが今は剣友会の稽古に参加できる程度に回復した。

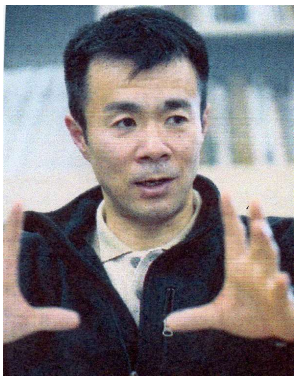
心身を錬磨し身心の鍛錬をしてきた効果が少なからずあったと思う。

ある道場の反省会で聞いたことがある。
何の競技か忘れたが世界大会の決勝で日本代表の選手が勝った瞬間ガッツポーズをしたそうだ。

当時首相であった方が、それを見て「アレはいかん！剣道にアレはない！」と言ったそうだ。
剣道では「取り消し」である。
これは行為、行動も重く見る剣道だけが持っている特性（特質）である。

我々がこの道に入った以上、剣技の修得、より高度な技術の追求、工夫などは剣道人ならばあたりまえである。
しかし、社会人であるという認識をわすれてならない。
「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」
剣道の理念である。

剣道の学び　　中　村　充　　教士七段



学校体育の現場では、「運動を楽しむ」「運動に親しむ」などの心理的側面からの目標がクローズアップされます。

それは、人が物事に取り組もうとする意欲は、楽しさと苦しさの体験が基礎となるからです。剣道の修業も、そのような「快苦の原理」を基礎として、心身ともに学ぶことが多いため、人は惹きつけられるのかもしれません。

学ぶの語源は「真似る」であり、その教授法の代表が「形（かた）」の文化につながっています。

基本である形を身につけ、そこから応用へ展開していくという「守破離」の考え方です。

勿論、この考え方や教授法は、武道や芸道の中核となるもので、継承すべきものだと考えています。

現代社会においては、場面、段階、相手などに応じて明確な説明をしなければなりません。例えば、子供たちあるいは全く剣道を知らない方から「私は左利きだから、右手が前で左手が後で竹刀を握った方が操作しやすい」との主張や「一足一刀の間合いとは、いったい何所の距離を測るのですか」と質問された事があります。

前者は文化的な観点であり、後者は技術的な観点からの説明が必要になります。

「そんなことは自分で考えなさい」と言いたくなる一方で、「全く剣道を知らない人から上級者まで納得いく答えを、明確に説明できるだろうか」と自問自答している自分がいました・

「教えることは教わることという言葉もありますが、私たちが指導する立場になった場合、そういった質問にしっかりと回答できることは重要だと思います。

そこにはまた、師弟ともに知的好奇心を呼び起こす、剣道の魅力がみえてくると思います。

小学生の大会と中学生の大会の結果の一部をご紹介します。小学生は成田剣道連盟会長杯、中学生は成田ロータリークラブ主催剣道大会、中体連第3ブロック大会、印旛郡市中学校総合体育大会剣道大会です。